

令和8年産 美里地区の大豆情報第5号

【残草処理と適期刈取り編】

宮城県美里農業改良普及センター

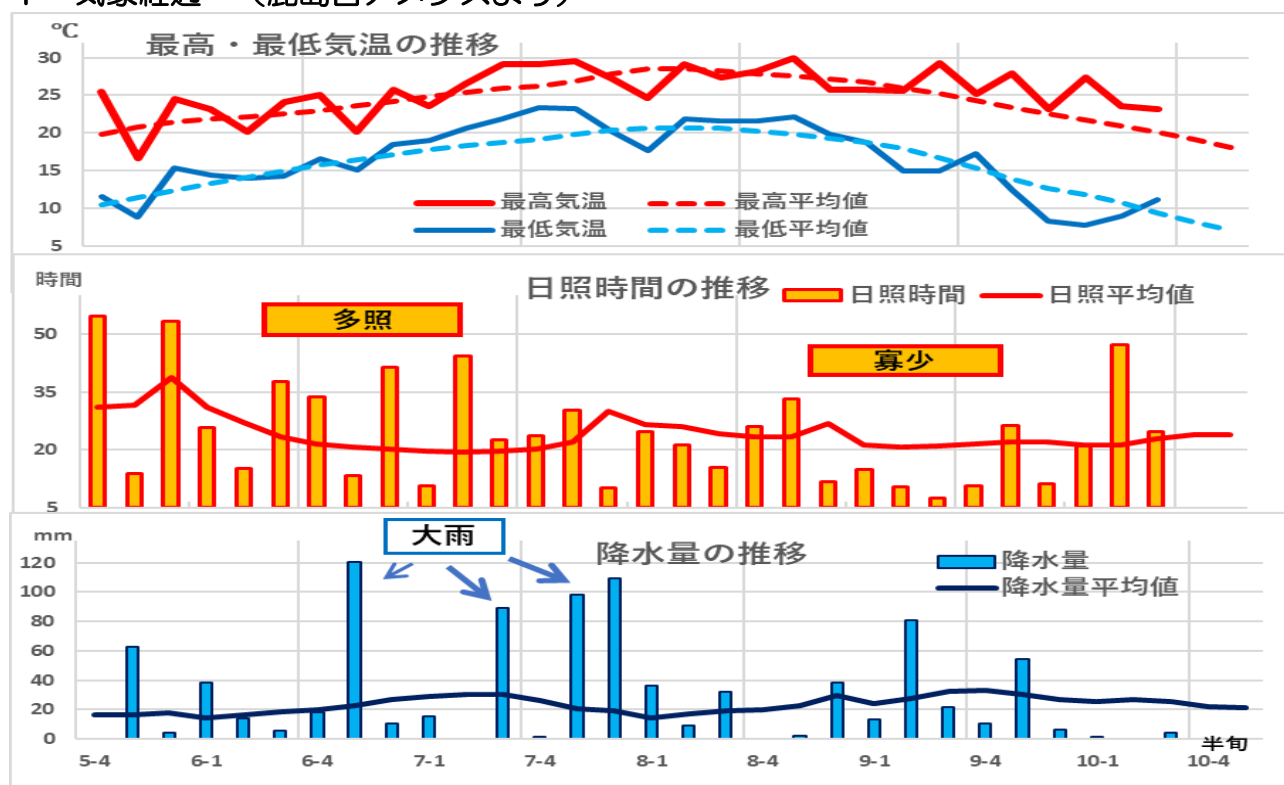
令和8年10月22日

TEL:0229-32-3115

FAX:0229-32-2225

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

1 気象経過 (鹿島台アメダスより)



播種後の気温は7月中旬に気温の高い日が続き、その後、9月第3半旬、第5半旬に一時高温のとなった時期を除き、概ね平年並みで推移しました。日照時間は6月中旬と7月は高気圧に覆われ晴れの日もありましたが、全般的に前線や低気圧の影響を受け、平年を下回る期間が多くなりました。特に、9月の日照時間は平年を大きく下回りました。降水量については、6月から9月までの期間で8月以外は多くなっており、特に播種直後の6月21日や7月12日、24日から26日にかけて大雨となるなど、期間を通しまとまった雨量を観測する日が度々ありました。

なお、今年の梅雨入りは6月20日、梅雨明けは8月4日頃となりました。

2 生育状況

管内では播種後間もない6月21日に大雨があり、浸水や冠水したほ場が各地で見られ、出芽不良や欠株が発生しました。その後、7月12日や25日前後にもまとまった降雨があり、再び浸水等による湿害が発生し、生育不良となっているほ場も各地で見られています。また、湿害によりほ場に入れず、除草剤散布や中耕培土等の管理作業が実施できなかったほ場も見られます。

今作では湿害が誘因となりダイズ黒根腐病が発生しているほ場が見られるほか、生育期間を通し、土壌の湿潤状態が長かったことから根の活力低下が早くなったとみられ、あわせて9月下旬から10月上旬に一時最低気温が10℃を下回ったことにより、葉の黄化や落葉が例年より早まっています。

3 今後の管理

(1) 雑草と青立ち株の抜き取り ～確実に実施しましょう～

雑草及び青立ち株は、汚粒の発生原因となります。収穫前にほ場を確認し、抜き取りましょう。抜き取った雑草はほ場の外に運び出しましょう。

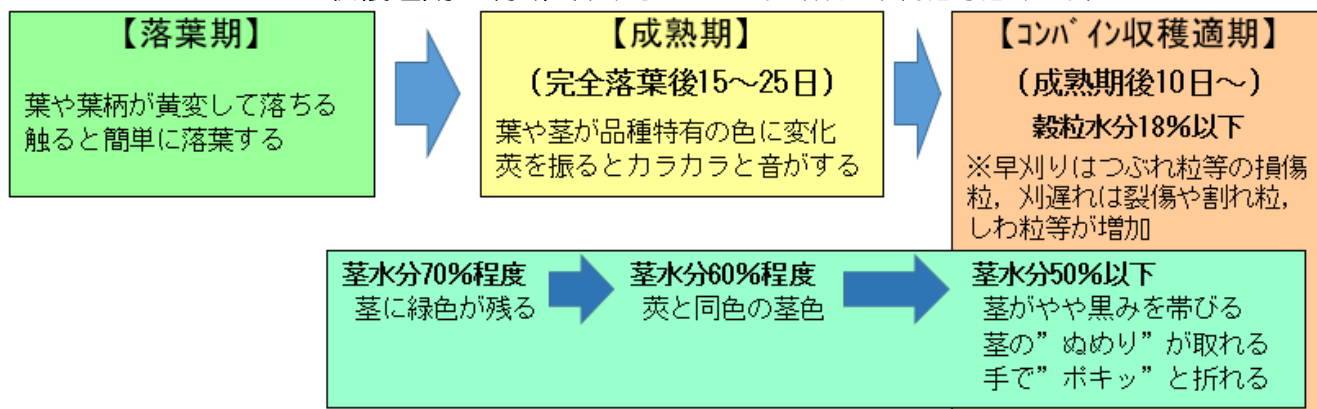
また、雑草を抜き取る際はほ場ごとに草種を確認し、次年度の対策に役立てましょう。

(2) 収穫作業 ～早めにコンバイン・乾燥機など機械の点検・清掃を実施しましょう～

収穫適期は成熟期後10～20日頃となります。天候やほ場全体の様子を考慮し収穫時期を判断しましょう。

早刈りは損傷粒や汚粒の増加、また、刈遅れは割れ豆やしわ粒、裂莢による作業ロスに繋がります。収穫適期の作業を心がけましょう。

収穫適期の判断（みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針より）

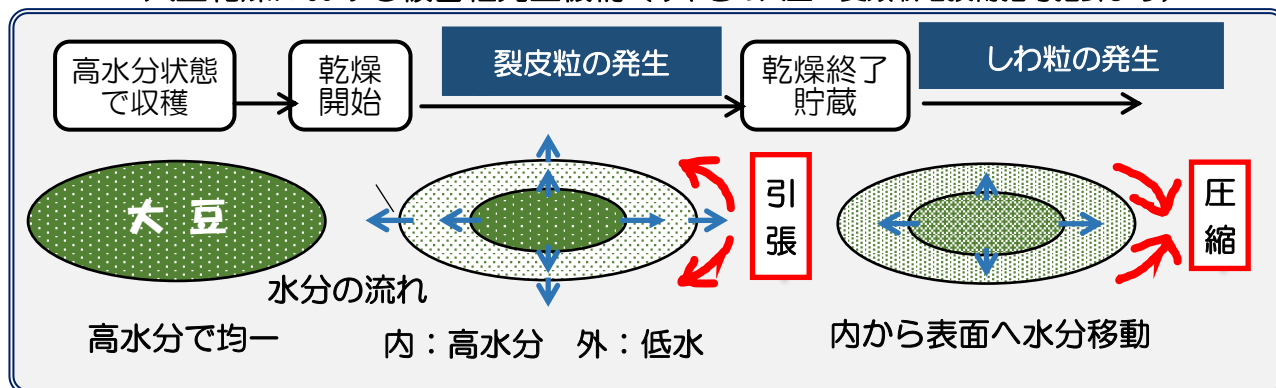


(3) 乾燥作業

乾燥は、初期水分、乾燥速度や温度によって、裂皮粒やしわ粒が生じ、品質低下の要因になる可能性があります。子実水分に留意しましょう。

- ① 送風温度を30℃以下にする（子実の平均水分が18%を超えるロットはさらに送風温度を落として乾燥する）。
- ② 送風温度は晴天時には常温乾燥（無加温）とし、雨天や夜間時は常温+5℃程度を目安とする。
- ③ 循環式乾燥機の場合、乾燥速度は緩やかに（毎時0.35%以下）設定する。

大豆乾燥における被害粒発生機構（みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針より）



～農作業安全確認運動実施中～

令和8年9月1日から11月30日まで

徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策